

環境マネジメント



基本的な考え方

ミネベアグループでは、「ミネベアグループ環境方針」の下、環境マネジメントシステムを構築し、グループ全社にて地球環境保護および人類の持続的な発展に貢献するよう努めています。

その具体的な取り組みとして、エネルギー効率の高い設備、プロセスを採用し、グループ全体のCO₂排出量を基準年（2010年度）から2015年度までに生産高原単位で5%削減する計画です。また、原材料、水などの資源を有効に活用するため、工場からの廃棄物、排水が最小限となるよう、取り組みを強化しています。同時に、高効率モーター、高効率照明、高効率エネルギー変換デバイス、およびビル、工場、都市住環境のスマート化に欠かすことのできない通信制御技術やセンサー、新素材の開発などにも積極的に取り組み、製品を通じた環境への貢献を進めています。

環境マネジメントシステム

●環境マネジメント体制

ミネベアグループでは、「ミネベアグループ環境方針」を実践するために、取締役会、社長執行役員をトップとした環境マネジメント体制を構築しています。全体の推進組織として、役員を中心とした環境マネジメント委員会と実務者によるグループ環境対策委員会を設置し、環境政策について迅速に対応できる体制としています。また、各事業所に事業所環境管理総括責任者と環境管理責任者を配し、工場、事業所ごとに具体的な環境保全活動を推進しています。

●環境監査

ミネベアグループでは、世界中の主要拠点においてISO14001の認証取得を推進しており、工場においてはすべての拠点で認証を取得しています。また、認証を維持するために、第三者機関による外部監査と、社内監査員による内部監査をそれぞれ年1回行っています。2013年1月に移転した東京本部でも2014年6月に認証を取得しています。



監査の様子（軽井沢工場）

環境教育

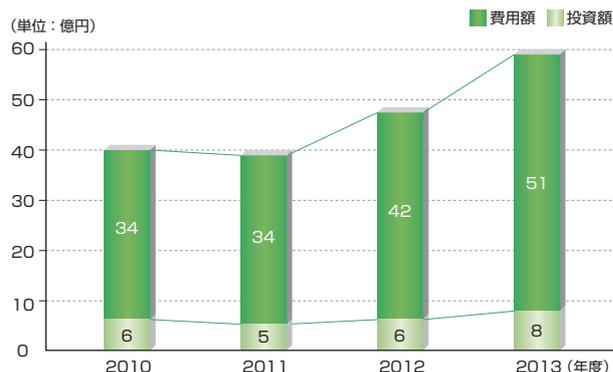
●基本的な考え方と2013年度の取り組み

ミネベアグループでは、一人ひとりの環境意識を高めるため、新入社員、中途採用社員全員を対象に環境マネジメント基礎教育を実施しています。また、一般環境教育として、ミネベアグループ環境方針や各事業所のISO14001に基づく目的・目標、実施計画などの教育を、全従業員を対象に実施しています。このほかにもISO14001内部監査員教育や、廃棄物管理教育、災害などの緊急事態を想定した訓練などを実施しています。

環境会計

ミネベアグループは、環境保全対策へのコストとその投資効果を認識するため、環境省が発行する「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、環境会計の集計を行っています。当社グループの2013年度の環境保全コストの総額は5,919百万円で、2012年度と比較して23%増加しましたが、これは為替の影響によるもので、各国通貨ベースの費用、投資額は、2012年度より約3%の増加となります。

▶2010年度～2013年度の環境保全コストの推移





生物多様性保全への取り組み

● 基本的な考え方

ミネベアグループでは、2012年度に改定した「ミネベアグループ環境方針」に「国際社会への貢献」を加え、当社グループの事業活動が自然界の生態系や生物多様性に影響を与える可能性を認識し、自然界の保護に努めることを表明しています。取り組みとして、まず初めに当社グループと生物多様性とのかかわりを調査し、事業活動における影響を把握することが重要と考えています。

ミネベアの環境負荷

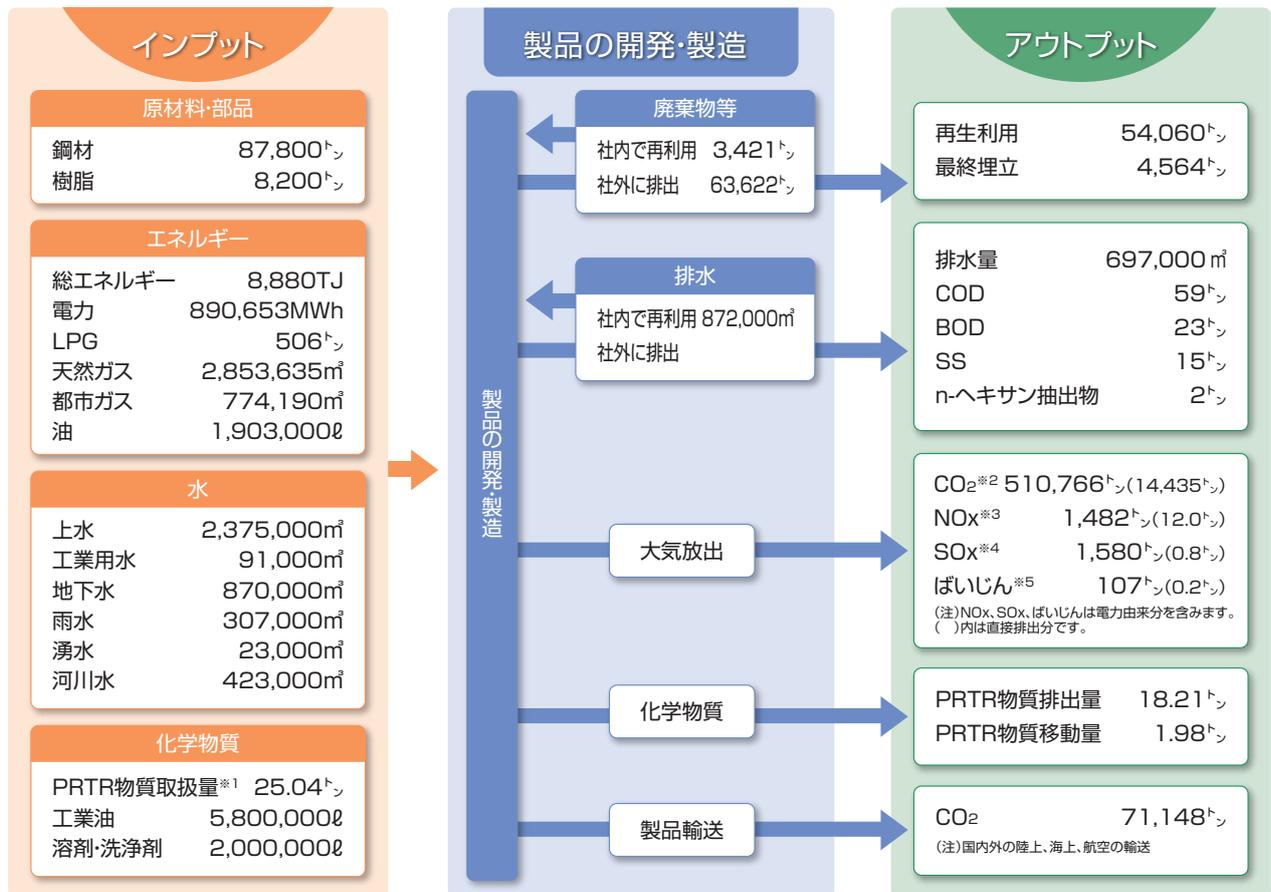
ミネベアグループは、世界18カ国に製造、販売拠点を

有し、主力のベアリングをはじめとする機械加工品、電子機器、回転機器など、多様な製品を生産、販売しています。環境負荷を売上高の生産地域別比率から見た場合、当社グループは日本を除くアジア地域で約8割を消費、あるいは排出しています。

2013年度は、売上高の急増に伴い原材料の使用量も約23%増加しましたが、総エネルギー量は2%の増加に止めることができました。工業油の増加については5%、溶剤・洗浄剤については2012年度と同量に止めることができ、売上(生産)増と比較して環境負荷は低く抑えることができました。

2013年度の当社グループの環境負荷は以下のとおりです。

▶ インプット・アウトプット(2013年度実績)



※1 PRTR物質：PRTR法(化学物質排出把握管理促進法/日本国内法)により排出量・移動量を把握し、届け出ること定められた化学物質。記載した数値は行政に届出した量。
 ※2 CO₂：二酸化炭素
 ※3 NO_x：窒素酸化物
 ※4 SO_x：硫黄酸化物
 ※5 ばいじん：燃焼、加熱および化学反応などにより発生する排出ガス中に含まれる粒子状物質